マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

ご使用前に必ずお読みください。

- 本製品をお取り扱いいただくための注意事項

REGZA Tabletガイド

本製品を使用するために必要な設定や、本製品の基本操作について説明しています。
『オンラインマニュアル』をお読みになる前に、『REGZA Tabletガイド』をお読みください。

- 各部の名称
- セットアップ
- 無線LANと Google™ アカウントの設定
- 基本操作
- Q&A集（画面が表示されない／電源が入らないとき）
- 初期化
- 廃棄／譲渡
- 本製品の充電
- 電源の切りかた／入れかた

など

オンラインマニュアル（本書）

本製品が起動しているときに本製品の画面上で見るマニュアルです。

- バックアップ
- 本製品のディスプレイやコネクタの取り扱い
- 周辺機器の接続
- アプリケーション／設定
- Q&A集

など

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危 険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	参照先を示します。 ● 本書内の参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 軽傷とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

プラットフォーム

特に説明がない場合は、Android™ 4.2 プラットフォームを示します。

デジタイザーペン付属モデル

デジタイザーペンが付属しているモデルを示します。

ご購入のモデルのシリーズ名、モデル名、仕様については、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールされているバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書に記載している画面やイラストは、本製品の画面を横に長い状態で使用する場合を前提に説明しています。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。
- 本書では、付属のデジタイザーペン*[1]による操作と、指で画面に触れる操作を、どちらも「タップ」や「フリック」などと表現しています。

＊1 デジタイザーペン付属モデルのみ

4 Trademarks

- Google 、Google ロゴ、Android 、Playミュージック、Playミュージック ロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows及びWindowsロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- microSDロゴは商標です。
- microSDHCロゴは商標です。
- microSDXCロゴは商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- 「IPAフォント」は、IPAの登録商標です。
- PRINTHANDは、Dynamix Softwareの商標です。
- Evernoteは、米EVERNOTE社の登録商標です。
- DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks and DTS Premium Voice Pro is a trademark of DTS, Inc. © DTS, Inc. All Rights Reserved.

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- コンセントに接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 低速度のネットワークに接続して本製品を使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 次のような環境で本製品を使用する場合
  ・気圧が低い高所（目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上）
  ・気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の場所

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的に電源が切れる場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品を使用した場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。
なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 お願い

- 本製品のプラットフォーム、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- 本製品のプラットフォーム、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- 本製品はセキュリティ対策のための画面ロックによるフェイスアンロック／パターン／PIN／パスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- **パターン／PIN／パスワードを設定した場合は、忘れてしまったときのために必ずパターン／PIN／パスワードを控えてください。**
  パターン／PIN／パスワードを忘れてしまって、パターン／PIN／パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  有料にてパターン／PIN／パスワードを解除いたします。
  その際、本製品を購入後に追加したアプリケーションや各種設定と、［内蔵ストレージ］フォルダー（データ領域）に作成したデータはすべて消失します。
  ご依頼にあたって、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
  参照 東芝PCあんしんサポート『サポートガイド』
- データの消失などに備えて、あらかじめファイルをmicroSDメモリカードなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。
  一度消失したデータを復旧することはできません。万が一のために、必ず定期的にバックアップをとってください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と、『エンドユーザーライセンス契約』および各種別紙をお読みください。また、本製品のセットアップ後にホーム画面で （アプリ）→ （設定）→［タブレット情報］→［法的情報］で次の項目をタップし、それぞれ表示される画面をお読みください。
  ・オープンソースライセンス
  ・Google 利用規約＊1
  ・東芝利用規約
  ・IPAフォントライセンスv1.0
  ＊1 インターネットへの接続が必要です。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。初期化を行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- Google のアプリケーションおよびサービス内容は、将来予告なく変更される場合があります。
- Google の各サービスを利用する際は、各サービスの利用規約をお読みください。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

8 H.264/AVC, VC-1and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP（http://www.mpegla.com）より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE http://www.mpegla.com

9 DTS Premium Voice Pro information

DTS Premium Voice Pro is a multimedia + voice enhancement solution that provides a remarkably expansive sound experience, complete with deep, rich bass, and crystal clear dialog. The solution also addresses and compensates for the challenges noisy environments pose to communication to deliver a soothing, rich and natural tonal quality that can be clearly heard and understood anytime, anywhere.

U.S. patents apply to this product. See http://patents.dts.com.

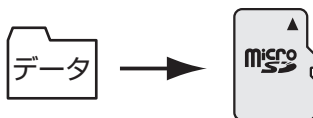
Manufactured under license from DTS Licensing Limited.

1章

データの管理

トラブル発生時に備えて、データのバックアップのとりかたについて説明します。

1 バックアップをとる

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、本製品のトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをmicroSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。

お願い　バックアップをとるにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 1 バックアップについて」を確認してください。

1 バックアップが必要なデータ

次のデータのバックアップをとることをおすすめします。

- 音楽や画像データ
- 自分で作成したデータ
- メールのデータ
- インターネット閲覧時の「ブックマーク」

次のような設定は、バックアップがとれません。
設定内容を控えておくことをおすすめします。

- 無線LANの設定
- Google アカウントの設定（ユーザー名やパスワード）

■インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダーから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、おもに次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザーID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード

メモ

- プラットフォームはバックアップをとることができません。
  本製品を購入時の状態に戻したいときは、初期化を行ってください。
  ただし、初期化を行うと、購入後に保存したデータや、追加したアプリケーションは削除されます。

参照 初期化（リセット）『REGZA Tabletガイド 4章 3 初期化（リセット）する』

2 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- microSDメモリカード
- USBフラッシュメモリ　　など

ファイルやフォルダーの容量に合わせて、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

3 バックアップをとる方法

「TOSHIBA File Manager」を使って、本製品に保存しているデータを記録メディアにコピーします。

参照 「本章 2 データを管理する」

4 バックアップしておいたデータを復元するには

バックアップをとっておいたデータを使いたい場合は、記録メディアに保存しておいたファイルを「TOSHIBA File Manager」で［内蔵ストレージ］フォルダー内にコピーしてください。

参照 「本章 2 データを管理する」

2 データを管理する
－TOSHIBA File Manager－

「TOSHIBA File Manager」で、内蔵フラッシュメモリ、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存しているフォルダーやファイルを見たり、コピーや削除をすることができます。

メモ

- 「TOSHIBA File Manager」から、ファイルに関連するアプリケーションを起動できない場合があります。

1 「TOSHIBA File Manager」の起動方法

1 ホーム画面で （アプリ）→ （File Manager）をタップする

「TOSHIBA File Manager」が起動します。

2 「TOSHIBA File Manager」の使用方法

（表示例）

■ファイルがあるデバイスや領域

- 内蔵ストレージ　：内蔵フラッシュメモリのデータ領域
- SDカード　：カードスロットにセットしたmicroSDメモリカード
- USBストレージ：microUSBコネクタに変換ケーブルなどを使って接続したUSBフラッシュメモリなどのUSB対応機器
- 画面キャプチャ　：音量ボタンの「－（マイナス）」側と電源スイッチを同時に2秒*1以上押してキャプチャした画面イメージが保存される*2領域

　＊1 6秒以上押すと、電源が切れます。
　＊2 表示している画面によっては、キャプチャできない場合があります。

■カテゴリータブ

選択されているデバイス内のファイルを、カテゴリー別に分類して、各タブに表示します。

- ：選択されているデバイス内のすべてのファイルが、フォルダ構成に従って表示されます。ファイルの操作（コピーや削除など）を行うことができます。
- ／／：選択されているデバイス内の音楽ファイル／動画ファイル／画像ファイルが表示されます。ファイルの操作（コピーや削除など）を行うことはできません。

■操作アイコン

「TOSHIBA File Manager」で画面右上に表示される各アイコンの機能は、次のようになっています。

アイコン	名称	機　　能
	上へ移動	表示するフォルダーの階層を１つ上へ移動する
	フォルダ作成	新しいフォルダーを作成する
	並び替え	表示するファイルやフォルダーを並び替える
	リスト表示	ファイルやフォルダーをリスト表示する
	グリッド表示	ファイルやフォルダーを格子状に表示する
	切り取り	ファイルやフォルダーを切り取る
	コピー	ファイルやフォルダーをコピーする
	削除	ファイルやフォルダーを削除する
	貼り付け	切り取りまたはコピーしたファイルやフォルダーを貼り付ける
	メニュー	メニューを表示する

3 ファイルのコピー方法

1 必要に応じて記録メディアをセットする

参照 microSDメモリカードのセット「2章 4-2 カードのセットと取り出し」

参照 USBフラッシュメモリのセット「3章 3 USB対応機器を使う」

2 「TOSHIBA File Manager」を起動する

3 コピー元のファイルがあるデバイスまたは領域をタップする

4 カテゴリータブが ❐ であることを確認する

❐ 以外のタブが表示されている場合は、❐ をタップしてください。

5 コピー元のファイルをロングタップしてチェックを付ける

複数のファイルをコピーしたい場合、続けて他のファイルをタップしてチェックを付けてください。

6 画面右上の （コピー）をタップする

7 コピー先のデバイスまたは領域をタップする

8 画面右上の （貼り付け）をタップする

4 ショートカットの追加

「TOSHIBA File Manager」の画面左側に、内蔵ストレージ内のフォルダーのショートカットを追加できます。

1 「TOSHIBA File Manager」を起動する

2 カテゴリータブが ❐ であることを確認する

❐ 以外のタブが表示されている場合は、❐ をタップしてください。

3 ショートカットを追加したいフォルダーをロングタップしてチェックを付ける

4 画面右上の ⋮ （メニュー）をタップし、表示されるメニューで［ショートカットへ追加］を選択する

画面左側に、フォルダーのショートカットが追加されます。

追加したショートカットを削除したい場合は、ショートカットをロングタップしてください。確認のメッセージが表示されるので、［OK］をタップすると削除されます。

2章

本体の機能

本製品各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 内蔵フラッシュメモリ

本製品には、内蔵フラッシュメモリが搭載されています。
内蔵フラッシュメモリは、取りはずしができません。

お願い 操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 1 - 2 内蔵フラッシュメモリについて」を確認してください。

内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしてバックアップをとることができます。

参照 「1章 1 バックアップをとる」

2 画面を見やすく調整する
－ディスプレイ－

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。

1 画面の向きを設定する

購入時では、使用するときの状態に合わせて、画面の向きが自動的に切り替わるように設定されています。
画面の向きは、横または縦向きに固定することもできます。
画面の向きを固定する場合は、固定したい向きに画面表示している状態で、次の操作を行ってください。

1 画面右上から下に向かってフリックする

クイック設定パネルが表示されます。

2 ［自動回転］をタップして、［画面の向きをロック］に切り替える

画面の向きが固定されます。
［画面の向きをロック］をタップして［自動回転］にすると、画面の向きが自動的に切り替わるようになります。

メモ

- 常に画面を横向きの状態で使用する場合は、次の方法で画面の向きを横向きに固定できます。
  ① ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする
  ② ［ユーザー補助］→［画面の自動回転］のチェックをはずす
  あらかじめチェックがはずれている場合は、一度チェックを付けて、再びチェックをはずしてください。
- アプリケーションによっては、画面の向きにより、適切に動作しない場合があります。この場合は、アプリケーションが適切に動作するように、画面の向きを切り替えてください。
- アプリケーションによっては、画面の向きの固定や自動切り替えに対応していない場合があります。
- テレビ／外部ディスプレイを接続した場合は、画面の向きの自動切り替えに対応しません。

2 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。
購入時では、本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を自動調整する機能が有効に設定されています。
自動調整する機能を無効にすると、任意で調整できます。

1 ホーム画面で（アプリ）→（設定）をタップする

［設定］画面が表示されます。

2 ［ディスプレイ］→［画面の明るさ］をタップする

［画面の明るさ］画面が表示されます。

3 ［明るさを自動調整］にチェックがついている場合は、チェックをはずす

4 スライダーバーで調整して、［OK］をタップする

メモ

- ［省電力］は［明るさを自動調整］をチェックした場合に選択できます。［省電力］にチェックを付けると、消費電力をおさえるために、画面の表示内容に応じて自動的に明るさが調整されます。

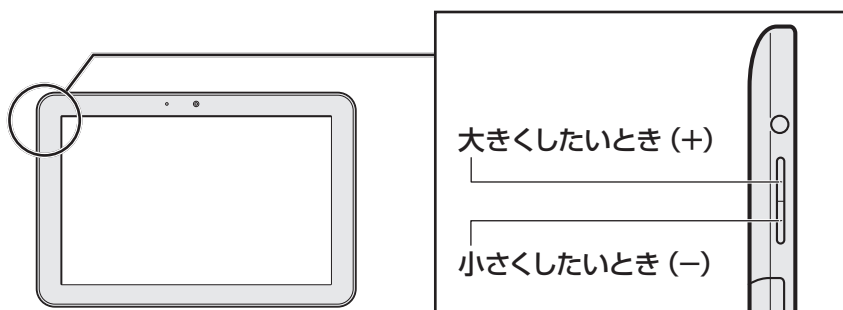
3 サウンド

1 音量を調整する

スピーカー、ヘッドホン、ヘッドセットの音量は、次の方法で調整できます。

1 音量ボタンで調整する

1 音量を大きくしたいときは音量ボタンの「＋（プラス）」側、小さくしたいときは「－（マイナス）」側を押す

音量ボタンの「＋（プラス）」側を押すたびに音量が大きくなり、「－（マイナス）」側を押すたびに音量が小さくなります。

2 「設定」から調整する

1 ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする

［設定］画面が表示されます。

2 ［音］→［音量］をタップする

［音量］画面が表示されます。

3 スライダーバーで調整して、［OK］をタップする

役立つ操作集

「マナーモード」について

「マナーモード」にすると、アラーム以外のサウンドをミュート（消音）にできます。
「マナーモード」にするには、電源ボタンを長押しして表示されるメニューから［マナーモード］をタップしてください。
「マナーモード」を解除するには、音量ボタンの「＋（プラス）」側を押してください。

4 microSDメモリカードを使う
ーカードスロットー

本製品ではmicroSDメモリカードをカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- microSDメモリカード
  （以降、microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含みます。）

microSDメモリカードで使用できる容量については『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。

1 microSDメモリカードを使う前に

お願い microSDメモリカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 1 microSDメモリカードを使うにあたって」を確認してください。

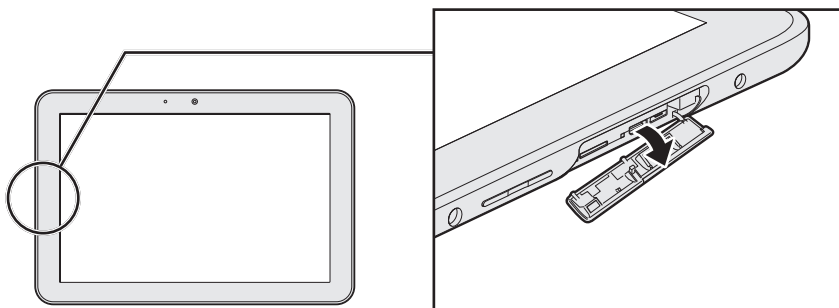
新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、microSDメモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

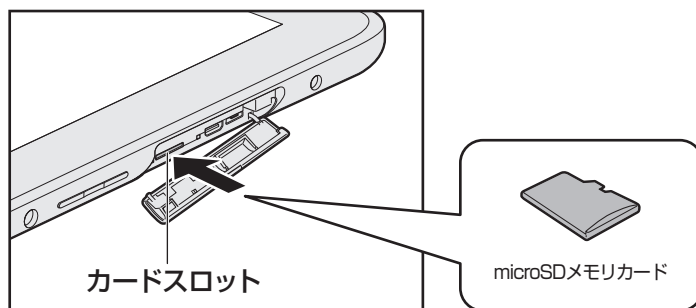
2 カードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 1 - 1 microSDメモリカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 カバーを開ける

2 microSDメモリカードの表裏を確認し、表を上にして、カードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

2 セットしたカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護されたファイルについては見ることができない場合があります。

1 「TOSHIBA File Manager」を起動する

参照 詳細について「1章 2 データを管理する」

2 ［SDカード］をタップする

セットしたmicroSDメモリカードの内容が表示されます。

3 取り出す

microSDメモリカードは、次の手順でマウントを解除してから取り出してください。

メモ

- 本製品をパソコンにMTP接続している間は、本製品にセットしているmicroSDメモリカードのマウントを解除できません。本製品をパソコンから取りはずしたあとに、マウントの解除を行ってください。

参照 MTP接続「本章 6 パソコンに接続する」

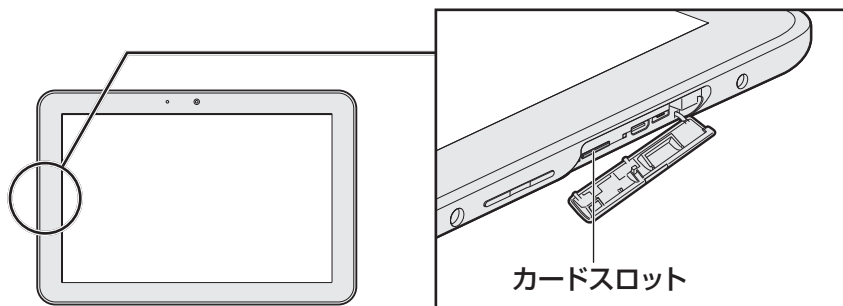
1 microSDメモリカードのマウントを解除する

① ホーム画面で（アプリ）→（設定）をタップする

［設定］画面が表示されます。

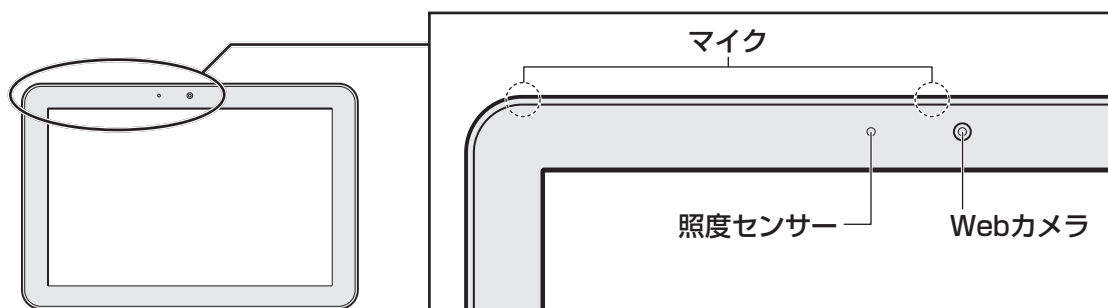
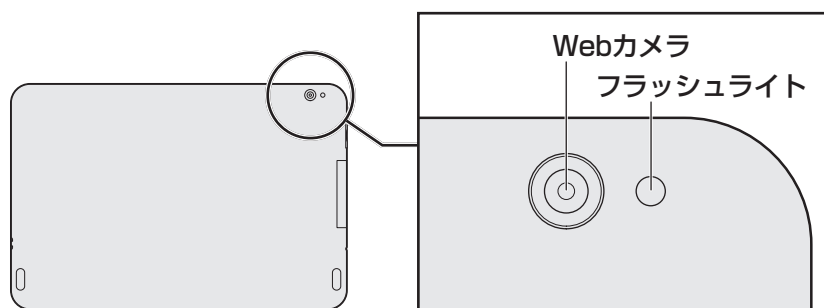
② ［ストレージ］→［SDカードのマウント解除］をタップする

メッセージが表示され［OK］をタップすると、カードスロットからmicroSDメモリカードの取り出しが可能になります。

2 カバーを開けて、microSDメモリカードを押す

microSDメモリカードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

5 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が搭載されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

■Webカメラ（前面）

■Webカメラ（背面）

お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 3 Webカメラについて」を確認してください。

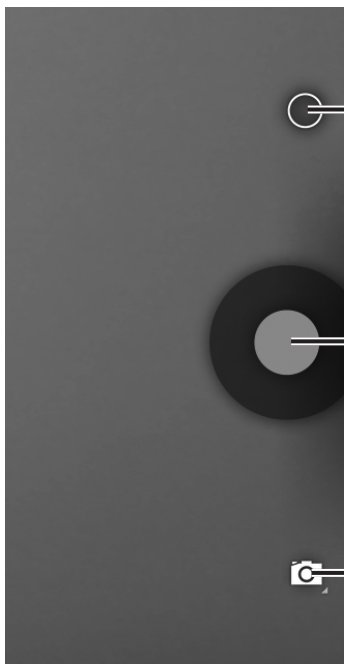
1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

1 ホーム画面で （アプリ）→ （カメラ）をタップする

初回起動時はメッセージが表示されますので、メッセージを確認して［はい］または［いいえ］をタップしてください。
「カメラ」が起動し、撮影画面が表示されます。

2 写真や動画を撮影する

（表示例）

3 写真や動画を再生する

撮影画面を左にフリックすると、撮影した写真や動画のサムネイルが表示されます。
サムネイルをタップすると、写真の場合は「ギャラリー」が起動して、写真を再生します。
動画の場合は「動画プレーヤー」または「TOSHIBA Media Player」を選択して、再生することができます。

6 パソコンに接続する
－microUSBコネクター

本製品をパソコンにMTP（Media Transfer Protocol）接続すると、パソコン側から、本製品内のファイルのコピーや削除などの操作を行うことができます。
本製品のmicroUSBコネクタで、パソコンに接続してください。
パソコンに接続すると、パソコン側から本製品がMTPデバイスとして認識されます。

本製品のmicroUSBコネクタには、パソコンだけではなくさまざまなUSB対応機器を接続することもできます。パソコン以外のUSB対応機器の接続については、「3章 3 USB対応機器を使う」を参照してください。

パソコンについて

接続するパソコンのOSやアプリケーションが、MTPに対応している必要があります。
MTPに対応しているパソコンのOSは、以下のとおりです。
＊ マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。

- Windows XP operating system 日本語版の全エディション＊1
- Windows Vista の全エディション
- Windows 7の全エディション

＊1 Windows Media Playerのバージョン11がインストールされている必要があります。

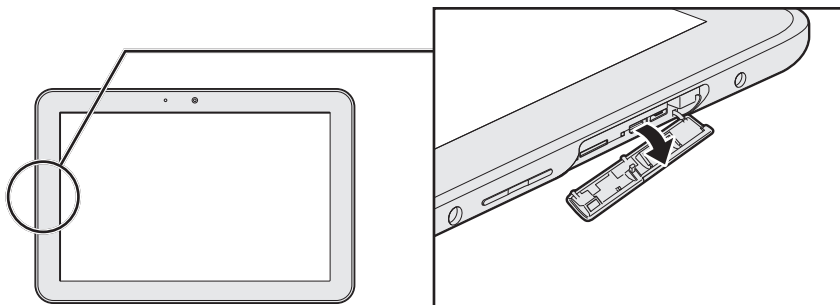
パソコンに接続するためのケーブルについて

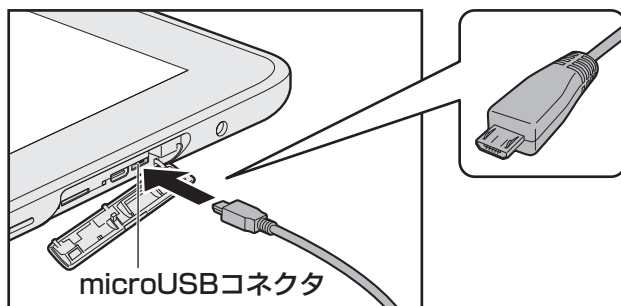
市販のUSBケーブル（本製品に接続する側のプラグがmicroBタイプのもの）を使用してください。
接続するパソコン側のプラグについては、『パソコンに付属の説明書』を確認してください。

1 取り付け

1 ケーブルの一方のプラグを、パソコンのUSBコネクタに差し込む

接続するパソコンの詳細は、『パソコンに付属の説明書』を確認してください。

2 カバーを開ける

3 ケーブルのもう一方のプラグを本製品のmicroUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取りはずし

1 パソコン上で本製品との接続を停止する

詳しくは、『パソコンに付属の説明書』を確認してください。

2 パソコンと本製品に差し込んであるケーブルを抜く

3 接続したパソコンから、本製品内のファイル操作を行う

接続したパソコンから、本製品内のファイルのコピーや削除などの操作を行うことができます。
本製品をパソコンに接続した状態で、次の操作を行ってください。

1. **本製品の電源を入れる**
2. **パソコン側で、エクスプローラーを起動して［コンピュータ］→［AT703］を開く**
3. **パソコン側から、ファイルのコピーや削除などの操作を行う**

パソコン側の操作の詳細は、『パソコンに付属の説明書』を確認してください。

メモ

- 「Windows Media Player」を使用すると、映像や音楽のファイルを、本製品とパソコン間で同期することができます。
  詳しくは、「Windows Media Player」のヘルプを参照してください。
  「Windows Media Player」で同期できない形式のファイルは、エクスプローラーでファイル操作してください。
- 本製品の内蔵フラッシュメモリは大容量ではないため、たくさんの映像や音楽のファイルを保存することはできません。
- 本製品に保存したファイルは、「TOSHIBA File Manager」で開いたり、「TOSHIBA Media Player」から再生することができます。
- ファイル形式によっては、ファイルに関連するアプリケーションが存在せず、ファイルを開けない場合があります。

7 バッテリーについて

本製品には、バッテリーパックが内蔵されています。
本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターでコンセントに接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了させてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠危 険

- 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する
  寿命などで交換する場合は、東芝PCあんしんサポートに依頼してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 4 バッテリーについて」を確認してください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 ステータスエリアの［バッテリー］アイコンで確認する

ステータスエリアの［バッテリー］アイコンの表示によってバッテリーの状態を確認できます。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	バッテリー充電量が極めて少なく、充電が必要な状態
⋮	⋮
	バッテリー充電量が半分程度の状態
⋮	⋮
	バッテリー充電量が十分な状態
	バッテリーを充電中の状態

2 ［電池残量］で確認する

次の手順で、より正確なバッテリー充電量を確認できます。

1 ホーム画面で（アプリ）→（設定）をタップする

［設定］画面が表示されます。

2 ［タブレット情報］→［端末の状態］をタップする

3 ［電池残量］を確認する

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、警告メッセージが表示されます。ただちにバッテリーを充電してください。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、コンセントに接続したまま使用し続けると、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、［バッテリー］アイコン、［電池残量］で充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度はバッテリー駆動で使用することを推奨します。なお、バッテリー駆動で使用する場合、いったんデータを保存してから使用してください。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、［バッテリー］アイコンなどで放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。
- バッテリーの充電量が少ない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。このような場合は、バッテリーを充電してください。

2 バッテリーを充電する

充電方法について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

本製品をコンセントに接続して、充電します。

1 本製品に付属の電源コードとACアダプターを接続して、コンセントに差し込む

参照 充電方法『REGZA Tabletガイド 1章 4 充電する』

充電が開始されると［バッテリーアイコン］の表示が に変わります。

2 ［バッテリーアイコン］の表示が になるまで充電する

メモ

- 本製品の電源が入っていない状態で充電する場合、画面中央にバッテリーアイコンが表示され、充電量を確認できます。
- 本製品を長時間ご使用にならないときは、電源コードとACアダプターをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

8 デジタイザーペンについて

＊ **デジタイザーペン付属モデルのみ**

モデルによっては、デジタイザーペンが付属しています。
指でタッチして操作するのと同様に、デジタイザーペンでも操作できます。
アプリケーションによっては、デジタイザーペンのボタンを使用しながら操作できます。

お願い　デジタイザーペンを使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 デジタイザーペンについて」を確認してください。

1 デジタイザーペンを使う前に

本製品付属の箱に、デジタイザーペン、替え芯、芯抜きが入っていますので取り出してください。
替え芯、芯抜きはなくさないよう大切に保管してください。

参照　芯の替えかたや芯抜きについて「付録 1 - 5 デジタイザーペンについて」

2 デジタイザーペンについて

消しゴムボタン
消しゴム機能に対応したアプリケーションでは、
消しゴムとしてお使いになれます。
ボタンの先が引っ込む程度に、ボタンを画面上の
消したい部分に軽く押しつけてください。

サイドボタン
アプリケーションによって機能が異なります。

ペン先
画面の表面をペン先でタッチして操作します。
タップ、ロングタップ、ドラッグ、フリック／スライドなど、
指での操作と同じ要領で行ってください。

3 章

周辺機器を使って機能を広げよう

本製品でできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、本製品に接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、本製品の性能を高めたり、本製品が持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、本製品の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 周辺機器について」を確認してください。
- USB対応機器を使用するには、プラットフォームが対応している必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。

次の周辺機器が使用できます。

- ヘッドセット
- ヘッドホン
- USB対応機器
- Bluetoothの外部機器（マウス、キーボード、ヘッドセットなど）
- テレビ
- 外部ディスプレイ

メモ

- マウスのホイールは、アプリケーションによって使用できない場合があります。

2 ヘッドセットやヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。

お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

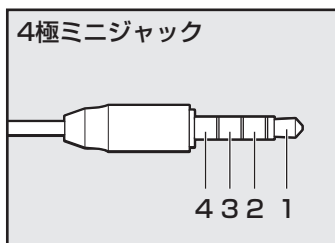
- あらかじめ、「付録 1 - 7 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

参照 音量の調整「2章 3 サウンド」

1 ヘッドセットを使う

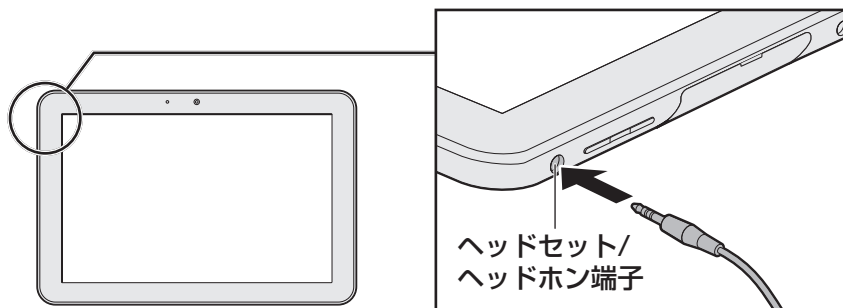
ヘッドセットを使うと、音声ソフトの使用や音声を使ったチャットを行うことができます。
本製品で外付けのマイクを使うときは、ヘッドセットのマイクを使用してください。

1 使用できるヘッドセット

本製品で使用できるヘッドセットは次のとおりです。

- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- すべてのヘッドセットに対応するものではありません。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
  1：オーディオ左
  2：オーディオ右
  3：グランド
  4：マイク

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

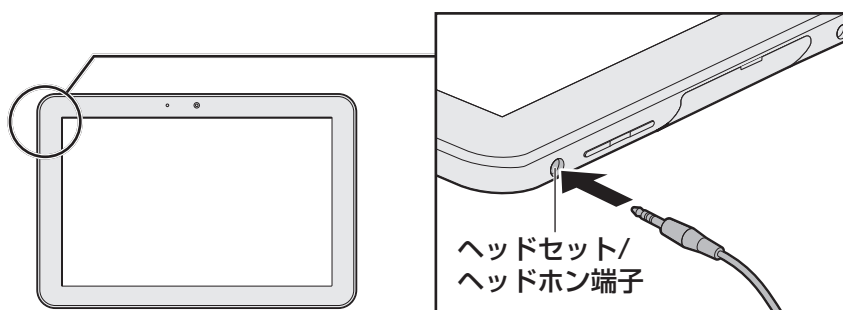
2 接続する

1 ヘッドセットのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドセットのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドセット/ヘッドホン端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 USB対応機器を使う

本製品では次のUSB(ユーエスビー)対応機器を使用することができます。

- USBフラッシュメモリ
- USB接続型ハードディスクドライブ
- USB対応マウス
- USB対応キーボード
- USB対応ハブ　　など

本製品のmicroUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

本製品のmicroUSBコネクタには、パソコンを接続することもできます。パソコンの接続については、「2章 6 パソコンに接続する」を参照してください。

USBケーブルについて

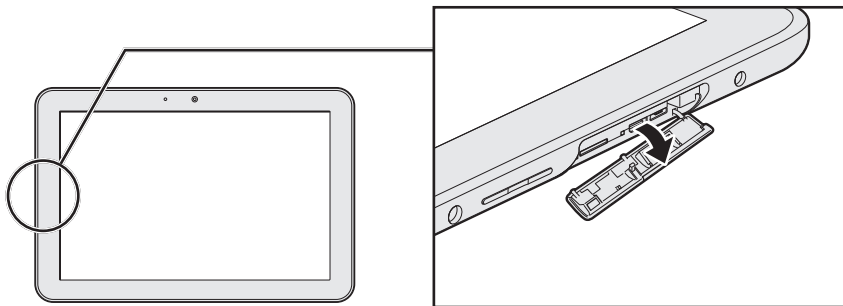
市販のUSBケーブルで、本製品に接続する側のプラグが、microAタイプのものを使用してください。接続するUSB対応機器側のプラグについては、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

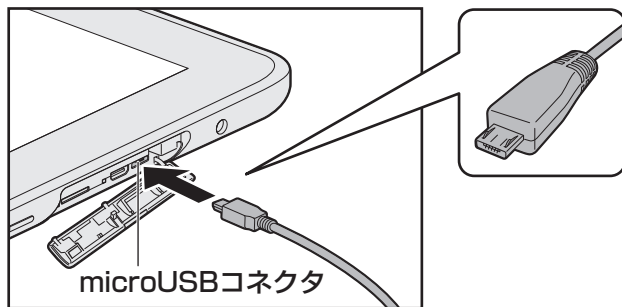
1 取り付け

本製品やUSB対応機器の電源が入っている状態でも、取り付けることができます。

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 カバーを開ける

3 USBケーブルのもう一方のプラグを本製品のmicroUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取り付けたUSB対応機器の内容を見る

USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブに保存している、著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 「TOSHIBA File Manager」を起動する

参照 詳細について「1章 2 データを管理する」

2 ［USBストレージ］をタップする

メッセージが表示されます。

3 目的のUSB対応機器を選択し、［OK］をタップする

セットしたUSBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブの内容が表示されます。

3 取りはずし

USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブを取りはずす場合は、取りはずす前にマウントを解除してください。
本製品やUSB対応機器の電源が入っている状態でも、取りはずすことができます。

1 USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブの場合は、マウントを解除する

① ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする

［設定］画面が表示されます。

② ［ストレージ］→ 取りはずすUSB対応機器をタップする

メッセージが表示され［OK］をタップすると、コネクタからUSB対応機器の取りはずしが可能になります。

2 本製品とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4 Bluetooth機能を使う

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器同士で無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 6 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。

参照 本製品で対応しているBluetoothのバージョン「付録 5 - 3 Bluetoothの仕様」

- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠ 警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る**
  本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能をOFFにした上で、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能をOFFにするには、クイック設定パネルで［機内モード］をONにしてください。あらかじめ［機内モード］がONになっている場合でも、お客様の操作で無線通信機能がONになっている可能性もあるため、いったん［機内モード］をOFFにし、再度ONにしてください。
  - ・スリープでは、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でも本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

1 ホーム画面で (アプリ)→ (設定)をタップする

2 [その他]をタップする

3 [機内モード]のチェックをはずす

4 [Bluetooth]をタップする

5 [Bluetooth]が[ON]になっていることを確認する

[OFF]になっている場合は、[OFF]をタップすると[ON]に切り替わります。
Bluetooth機能を使用できるようになり、検出したBluetoothの外部機器が画面に表示されます。

6 接続するBluetoothの外部機器をタップする

[Bluetoothのペア設定リクエスト]画面が表示されます。
画面に従って設定してください。
Bluetoothの外部機器との接続が開始されると、[ペアリングされたデバイス]に登録されます。以降は、[ペアリングされたデバイス]から接続／切断できます。

使用できるBluetoothプロファイルについては、『＊＊＊＊(お使いの機種名)シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

5 テレビ／外部ディスプレイを接続する

本製品とテレビ／外部ディスプレイをＨＤＭＩ(エイチディーエムアイ)ケーブルで接続すると、画面に本製品の表示画面を表示させせることができます。
HDMI（micro）出力端子は、音声もテレビ／外部ディスプレイに出力することができます。

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属の説明書』もあわせて確認してください。
HDMI入力端子があるテレビ／外部ディスプレイを接続できます。

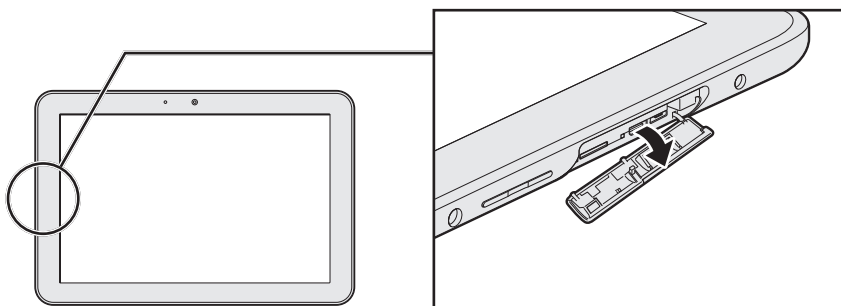
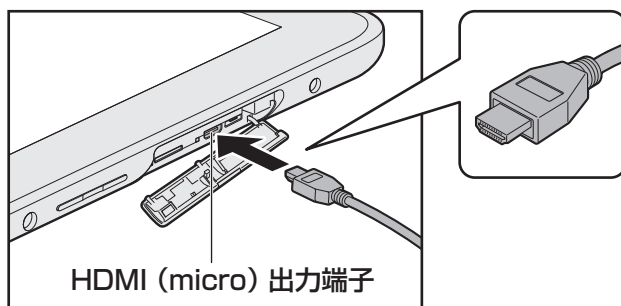
メモ

- 接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE）の表示があるケーブルをご使用ください。
- テレビ／外部ディスプレイへの表示方法は、「本節 2 表示について」を参照してください。
- 本製品の解像度にあったテレビ／外部ディスプレイを接続してください。

1 本製品に接続する

1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む

2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる

3 カバーを開ける

4 HDMIケーブルのもう一方のプラグを本製品のHDMI（micro）出力端子に差し込む

メモ

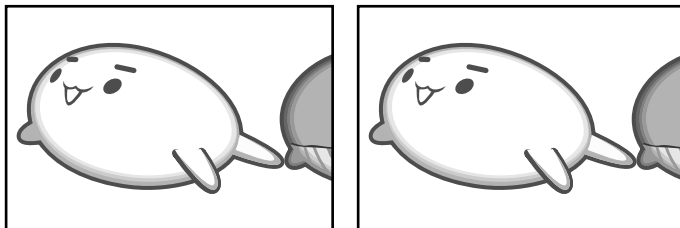
- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は５秒以上間隔をあけてください。

2 表示について

テレビ／外部ディスプレイを接続すると、本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの両方に同時表示されます。表示される内容はアプリケーションにより異なります。画面の自動回転は無効になります。

■本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

2つの表示装置それぞれに表示します。

メモ

- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

3 本製品から取りはずす

テレビまたは外部ディスプレイと本製品の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 HDMI（micro）出力端子からケーブルを抜く

4章

アプリケーション／設定

本製品に用意されているアプリケーションや設定について説明しています。

1 アプリケーション

本製品に用意されている、おもなアプリケーションについて説明します。ホーム画面で （アプリ）をタップすると、アプリケーションの一覧が表示されます。
アプリケーションはあとから追加することもできます。

参照 アプリケーションの起動方法
『REGZA Tabletガイド 3章 2 - 1 アプリケーションを起動する』

1 アプリケーションを使うにあたって

本製品に用意されているアプリケーションの一覧は、『＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。
ここでは、一部のアプリケーションのご使用にあたって、知っておいていただきたいことを説明します。

インターネット／通信

■ ブラウザ

インターネットブラウザソフトです。ホームページの閲覧ができます。
ホームページのレイアウト（フレーム）、内容によっては、正しく表示できない場合があります。
ファイルのアップロードについては、サポートしておりません。

実用

■ TOSHIBA File Manager

内蔵フラッシュメモリ、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存している、フォルダーやファイルを見たり、コピーすることができます。

参照 「1章 2 データを管理する」

■ PrintHand

本製品から、写真やドキュメント、Webページなどを印刷できます。
Wi-FiやBluetoothなどに対応したプリンタが必要です。
USB接続のプリンタには対応していません。

■ Evernote

「Evernote」のサービスに登録すると、テキストやWebページ、写真などを保存することができます。

マルチメディア

■TOSHIBA Media Player

音楽や映像、写真などのファイルを再生することができます。
DMP（Digital Media Player）、DMC（Digital Media Controller）機能は、Windows 7上の「Windows Media Player Network Sharing Service」のみを対象としており、他のDMS（Digital Media Server）機器との接続は保証しておりません。
ファイルの検索中は、microSDメモリカード、USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブの取りはずしやマウントの解除を行わないでください。音楽や映像の再生が停止する場合があります。

■Playミュージック

本製品に保存されている音楽ファイルを再生することができます。
プラットフォーム側の制限で、曲名などの表示において一部の2バイト文字コードが正しく処理されません。

■カメラ

Webカメラで写真や動画を撮影することができます。

参照 「2章 5 Webカメラを使う」

■ギャラリー

内蔵フラッシュメモリ、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリに保存している静止画や映像などのファイルを一覧表示し、再生することができます。
内蔵フラッシュメモリ内に保存されているファイルと、記録メディアや外部記憶装置内に保存されているファイルは、区別なく一元表示されます。

メモ

- 本製品で撮影した動画以外を、「ギャラリー」でトリミングできません。
- 本製品で撮影した動画データについて、「ギャラリー」の「詳細情報」で表示される長さ情報と、実際の録画時間に数秒程度の誤差が生じる場合があります。
- トリミングした動画は、「ギャラリー」の「詳細情報」や「TOSHIBA Media Player」の「詳細」で、長さ情報が表示されません。

メモ codecについて

- 「TOSHIBA Media Player」、「Playミュージック」、「ギャラリー」でサポートしているcodecは、次のとおりです。
  エンコード条件によっては、正常に再生あるいは表示できない場合があります。
  <音楽>
  ・AAC LC
  ・HE-AACv1（AAC+）
  ・HE-AACv2（enhanced AAC+）
  ・AMR-NB
  ・AMR-WB
  ・MP3
  ・MIDI
  ・Ogg Vorbis
  ・WAVE（PCM、a-law、u-law）
  ・WMA
  ・FLAC
  <画像>
  ・JPEG　・GIF　・PNG　・BMP
  <映像>
  ・H.263　・H.264　・MPEG-4　・VC-1/WMV

その他 ユーティリティ

■Online Manual

「オンラインマニュアル」（本書）を起動できます。

■連絡帳

連絡先などのユーザー情報を登録できます。
漢字の氏名は、よみがなを登録すると、よみがなの順で表示されます。よみがなを登録しないと、「他」以降に表示されます。

■TOSHIBA Service Station

プラットフォームやアプリケーションのアップデートを自動的に提供します。

参照 詳細について
『REGZA Tabletガイド 3章 6 プラットフォームやアプリケーションをアップデートする』

■TruCapture

ホワイトボードや印刷物、ノートなどを撮影して電子化するアプリケーションです。領域の色と形を自動的に補正した画像ファイルを作成します。

■TruNote

手書きノートを作成できるアプリケーションです。ノートへの簡単な取り込みや、手書きによる検索機能、さまざまな形式への変換機能などが用意されています。また、写真やウェブサイトなどを画面に表示している状態で、画面下の［アイコン］（メモボタン）をタップすると、表示している写真やウェブサイトなどの上に手書きコメントを追加することができます。

お願い アプリケーションの使用にあたって

- 複数のアプリケーションを起動した状態で、マップなどの画像処理を多用するアプリケーションで画面の回転やスクロール操作を行った場合、アプリケーションが強制終了するなど、動作が不安定になることがあります。その場合は、起動するアプリケーションを減らしてご使用ください。
- 購入後にウィジェットを設定した場合、ウィジェットによっては起動時に不安定な状態になることがあります。その場合は、ウィジェットに関連するアプリケーションをアプリケーション一覧から起動してください。

参照 アプリケーション一覧『REGZA Tabletガイド 3章 2 アプリケーションを使う』

2 設定

本製品を使用するときの、さまざまな環境の設定については、「設定」で変更や確認をすることができます。ホーム画面で（アプリ）→（設定）をタップすると、［設定］画面が表示されます。
「設定」の一部の項目は、「所有者」が使用している場合のみ表示されます。

参照 「所有者」について『REGZA Tabletガイド 3章 8 ユーザーを追加する』

1 設定の項目

■無線とネットワーク

無線LANやBluetoothの設定を行うことができます。

参照 無線LANについて『REGZA Tabletガイド 2章 無線LANとGoogleアカウントの設定』
参照 Bluetoothについて「3章 4 Bluetooth機能を使う」

■音

本製品の音量や、音の効果などを変更することができます。

参照 音量について「2章 3 サウンド」

■ディスプレイ

画面の明るさ、スリープ（画面表示の自動OFF）、壁紙などの設定を行うことができます。フォントサイズを変更すると、アプリケーションによっては文字が適切に表示されない場合があります。

参照 輝度について「2章 2 画面を見やすく調整する」

■カメラ

カメラの各補正機能を変更することができます。

メモ

- 各補正機能が有効になっていても、カメラアプリケーション内のシーンモード、HDR、フラッシュなどの設定内容により、補正機能が適用されない場合があります。
- 手振れ補正機能が有効になっていても、明るい場所では自動的に無効になります。
- 手振れ補正機能が有効になっていても、撮影状況や撮影対象によっては、手振れやノイズが十分に軽減されない場合があります。

■高画質設定

映像の効果を変更することができます。
高画質設定をONにすると、Resolution+による映像効果の高画質化処理が適用されます。
さらに［高画質］にチェックを付けると、より高度な処理が適用されます（チェックを付けない場合は、標準的な処理が適用されます）。
［高画質化デモモード］は、［高画質］をチェックした場合に選択できます。本機能により、ディスプレイ領域の左半分だけResolution+を適用し、効果を確認することができます。
高画質設定は、アプリケーションやコンテンツによっては適用されない場合があります。また高画質設定によって、バッテリー駆動での使用時間に影響が出る場合があります。

■高音質設定

音の効果を変更することができます。
「Audio Enhancer Pro」、「Noise Equalizer」、「Volume Equalizer」、「聴きとりやすさコントロール」、「音源バランスコントロール」、「DTS Premium Voice Pro™」、およびマイクの「ノイズ抑圧」、「マイク指向性コントロール」の各機能を設定できます。
高音質設定は、アプリケーションやコンテンツによっては適用されない場合があります。また高音質設定によって、バッテリー駆動での使用時間に影響が出ることがあります。

■ストレージ

セットしている記録メディアや外部記憶装置、内蔵フラッシュメモリのデータ領域の情報を確認することができます。

■電池

バッテリーでの使用時間や充電量を確認することができます。

■節電設定

バッテリー消費に影響のあるシステム設定を一括変更することができます。

- ［デフォルト］：購入時の設定に戻します。
- ［省電力］　：バッテリー消費をおさえた設定に変更します。
- ［カスタム］　：カスタマイズした設定に変更します。

■アプリ

アプリケーションを管理します。
左右にフリックすると、タブが切り替わります。
［すべて］タブに表示される一覧から、一部のアプリケーションを無効にすることができます。
使用しないアプリケーションを選択して「無効にする」をタップしてください。ホーム画面上のアイコンも表示されなくなります。

■ユーザー

新しいユーザーの追加や削除、情報の変更ができます。

参照 ユーザーの追加の手順『REGZA Tabletガイド 3章 8 ユーザーを追加する』

お願い 複数のユーザーで使用するにあたって

- 内蔵フラッシュメモリの空き容量が少ない場合、新しいユーザーを追加すると、プラットフォームの動作が不安定になることがあります。新しいユーザーを追加する前に、作業中の内容を保存し、不要なアプリケーションやデータを削除するなどして、内蔵フラッシュメモリの空き容量を確保してください。
- アプリケーションのインストール、アップデート、アンインストール中に、新しいユーザーを追加したり、別のユーザーに切り替える操作を行わないでください。プラットフォームの動作が不安定になることがあります。
- 別のユーザーが複数のアプリケーションを起動している場合、タブレットの動作や反応が遅くなったり、動作が不安定になることがあります。その場合は、起動するアプリケーションを減らしてご使用ください。
- ユーザーを切り替える前に、作業中の内容を保存してください。他のユーザーが電源を切ると、作業中の内容は失われます。

■位置情報アクセス

現在地情報の設定と、GPS機能を設定することができます。

■セキュリティ

画面ロックやパスワードなどを設定することができます。

参照 「本章 3 画面ロック」

■言語と入力

言語や入力、音声出力の設定を行うことができます。

■デジタイザーペン

デジタイザーペンの設定を行うことができます。

■バックアップとリセット

データのバックアップの設定と、データの初期化を行うことができます。

参照 データの初期化（リセット）について
『REGZA Tabletガイド 4章 3 初期化（リセット）する』

■アカウントを追加

アカウントの管理と同期の設定を行うことができます。Google アカウントなどが登録されている場合、一覧が表示されます。

■日付と時刻

日付と時刻の設定を行うことができます。
本製品では、2038年1月18日まで設定することができます。

■ユーザー補助

文字サイズを変更したりパスワードの音声出力などについて設定することができます。

■タブレット情報

本製品の情報を確認できます。

3 画面ロック

「画面ロック」は、電源を入れたときやスリープから復帰するときにロック画面を表示し、ロックを解除しないと本製品を使用できないようにする機能です。
画面ロックの方法には次の種類があり、いずれか1つを設定できます。

画面ロックの方法	設定内容	画面ロックの解除方法
スライド	購入時の設定です。	（施錠のアイコン）を（開錠のアイコン）までドラッグします。
フェイスアンロック	ユーザーの顔を登録します。予備として、パターンまたはPINも登録します。	Webカメラに顔を認識させて解除します。
パターン	丸をなぞってパターンとして登録します。	パターンをなぞって解除します。
PIN	4つ以上の数字の組み合わせ（PIN）を登録します。	PINを入力して解除します。
パスワード	半角英数字4文字以上の組み合わせを登録します。	パスワードを入力して解除します（パスワードを入力する際は、入力欄をタップすると、画面下にキーボードが表示されます）。

お願い パターン／PIN／パスワードを設定するにあたって

- **パターン／PIN／パスワードを設定した場合は、忘れてしまったときのために必ずパターン／PIN／パスワードを控えてください。**
  パターン／PIN／パスワードを忘れてしまって、パターン／PIN／パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパターン／PIN／パスワードを解除いたします。
  その際、本製品を購入後に追加したアプリケーションや各種設定と、[内蔵ストレージ] フォルダー（データ領域）に作成したデータはすべて消失します。
  ご依頼にあたって、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
  参照 東芝PCあんしんサポート『サポートガイド』

1 パターンの設定方法

画面上に表示される９個の丸の中から複数の丸をなぞる順番をパターンと呼びます。

1 ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする

2 ［セキュリティ］→［画面のロック］をタップする

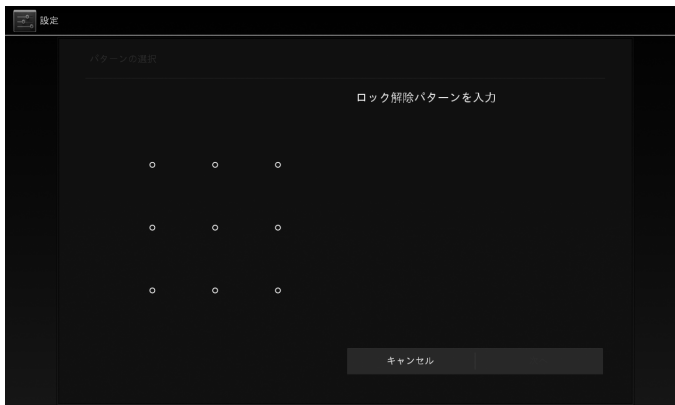
すでにスライド以外の画面ロックを設定している場合は、画面に従ってロックを解除してください。

3 ［パターン］をタップする

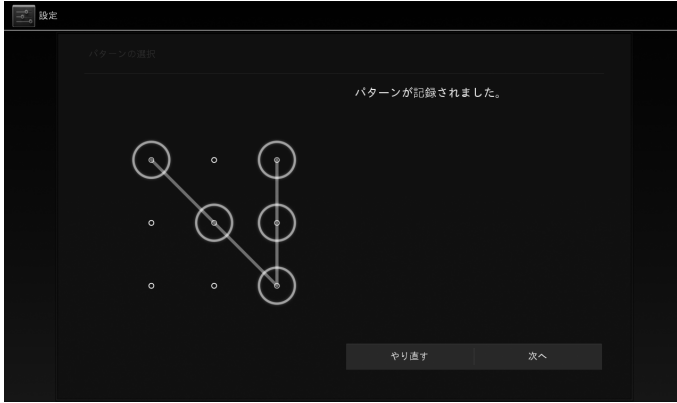
画面ロックの説明画面が表示された場合は、説明を読んで［次へ］をタップしてください。
［ロック解除パターンを入力］画面が表示されます。

4 新しいパターンを入力する

- パターンを忘れてしまったときのために、必ずパターンを控えてください。

画面に指をつけたまますべらせて、画面の４箇所以上の丸をなぞります。

（表示例）

4章 アプリケーション／設定

5 ［次へ］をタップする

（表示例）

［確認のため、もう一度パターンを入力してください］画面が表示されます。

6 手順 4 のパターンをもう一度入力する

7 ［確認］をタップする

パターンが設定されました。

2 PINの設定方法

画面上に表示されるキーボードの 0 ～ 9 の数字キーから入力する認証用の番号をPINと呼びます。

1 ホーム画面で （アプリ）→（設定）をタップする

2 ［セキュリティ］→［画面のロック］をタップする

すでにスライド以外の画面ロックを設定している場合は、画面に従ってロックを解除してください。

3 ［PIN］をタップする

［PINを選択］画面が表示されます。

4 新しいPINを入力する

お願い

- PINを忘れてしまったときのために、必ずPINを控えてください。

画面上に表示されたキーボードの 0 ～ 9 の数字キーをタップします。4つ以上の数字を入力してください。

5 ［次へ］をタップする

［PINの確認］画面が表示されます。

6 手順 4 のPINをもう一度入力する

7 ［OK］をタップする

PINが設定されました。

3 パスワード設定方法

画面上に表示されるキーボードから入力する認証用の文字列をパスワードと呼びます。

1 ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする

2 ［セキュリティ］→［画面のロック］をタップする

すでにスライド以外の画面ロックを設定している場合は、画面に従ってロックを解除してください。

3 ［パスワード］をタップする

［パスワードを選択］画面が表示されます。

4 新しいパスワードを入力する

お願い

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

画面上に表示されたキーボードのキーをタップします。
半角英数字４文字以上で入力してください。
英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

5 ［次へ］をタップする

［パスワードを確認］画面が表示されます。

6 手順 4 のパスワードをもう一度入力する

7 ［OK］をタップする

パスワードが設定されました。

5章

困ったときは

本製品の操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかをQ&A形式で説明しています。

1 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『REGZA Tabletガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『REGZA Tabletガイド』も参照してください。

1 操作／取り扱い

Q 無線LANが使えない

A 機内モードになっている可能性があります。

次の操作を行って、機内モードを解除し、無線LAN機能をONにしてください。

①画面右上から下に向かってフリックする
　クイック設定パネルが表示されます。
②［機内モード］をOFFに切り替える
③［Wi-Fi］がONにならない場合、［Wi-Fi］をタップして、［設定］画面で［Wi-Fi］を［ON］に切り替える

参照 無線LAN機能をONにする操作の詳細
『REGZA Tabletガイド 2章 3-2 無線LAN機能をONにする』

A 無線LANが正しく設定されているか、確認してください。

ホーム画面で（アプリ）→（設定）をタップして、［Wi-Fi］で確認できます。

Q 追加したアプリケーションが使えない

A アプリケーションは、プラットフォームのバージョンによっては使えない場合があります。

対応バージョンを確認してください。

Q 本製品のプラットフォームのバージョンを確認したい

A 次の操作を行って、確認してください。

ホーム画面で（アプリ）→（設定）→［タブレット情報］をタップして表示される、「Android バージョン」で確認できます。

Q パソコンに接続してもMTPデバイスとして認識されない、またはファイルのコピーや削除の操作ができない

A 接続できるパソコンの条件を満たしていない可能性があります。接続できるパソコンの条件は以下のとおりです。

＊マイクロソフト社が提供している最新のService Pack を適用してください。

- Windows XP operating system日本語版の全エディション＊1
- Windows Vistaの全エディション
- Windows 7の全エディション

＊1 Windows Media Playerのバージョン11がインストールされている必要があります。

Q パソコンに接続して「Windows Media Player」でファイル同期できない

A 「Windows Media Player」のバージョンが合ってない可能性があります。

パソコン側の「Windows Media Player」は、バージョン11または12を使用してください。

A ファイル形式によっては、「Windows Media Player」の同期機能が使用できない場合があります。

この場合は、エクスプローラーでファイルのコピーなどを行ってください。

Q microSDメモリカードのデータが表示されない

A microSDメモリカードが正しく認識されていない可能性があります。

いったんmicroSDメモリカードを取り出し、再度セットし直してください。

Q 音が出ない

A マナーモードになっている可能性があります。

「マナーモード」を解除するには、音量ボタンの「＋（プラス）」側を押してください。

Q マイクの音が小さい、音質が良くない

A 使用状況によっては、マイクの音が小さくなったり、音質が悪くなります。

ホーム画面で（アプリ）→（設定）→［高音質設定］をタップし、［ノイズ抑圧］を［低］または［OFF］にし、［マイク指向性コントロール］のチェックをはずしてください。

Q マイクでステレオ録音できない

A アプリケーションによっては、ステレオ録音をサポートしていません。

ホーム画面で（アプリ）→（設定）→［高音質設定］をタップし、［マイク指向性コントロール］のチェックをはずすと、ステレオ録音できる場合があります。

Q テレビ／外部ディスプレイを接続しても、テレビ／外部ディスプレイに画面が表示されない

A テレビ／外部ディスプレイ側で設定が必要な場合があります。

テレビ／外部ディスプレイ側の表示を、外部入力機器の画面に切り替えてください。

Q Wi-Fi Direct接続ができない

A 使用状況によっては、Wi-Fi Direct接続できない場合があります。

同時に無線LANとWi-Fi Directを使用する場合は、先に無線LANを接続させ、次にWi-Fi Directを接続してください。
Wi-Fi Direct接続する2つの機器が、それぞれ異なる無線LANアクセスポイントに接続している場合は、Wi-Fi Direct接続ができない場合があります。

Q デジタイザーペンで操作できない、誤動作する

A デジタイザーペンに対応していないアプリケーションの場合、デジタイザーペンでの操作ができなかったり、誤動作する場合があります。

この場合は、デジタイザーペンで操作せず、指で操作してください。

Q 画面にデジタイザーペンのペン先が触れていないのに、アプリケーションが反応したり誤動作する

A ホバリング操作（ペン先を画面に近づける操作）に対応していないアプリケーションでは、誤動作する場合があります。

この場合は、デジタイザーペンで操作せず、指で操作ください。

Q デジタイザーペンの消しゴムボタンやサイドボタンが反応しない

A 消しゴムボタンやサイドボタンは、対応したアプリケーションでのみ使用できます。

使用しているアプリケーションが、デジタイザーペンの消しゴムボタンやサイドボタンに対応しているかご確認ください。

2 その他

Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対する本製品の方向を変える
- 本製品をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q 日付や時刻が合っていない

A 次の手順で日付と時刻を合わせてください。

① ホーム画面で （アプリ）→ （設定）をタップする
② [日付と時刻] をタップする
③ [日付と時刻の自動設定] にチェックが付いている場合は、チェックをはずす
④ [日付設定] と [時刻設定] で、正しい日時に合わせる

Q しばらく本製品を使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった

A バッテリーの充電量が不足しています。

電源コードとACアダプターでコンセントに接続して、バッテリーを充電してください。
その後に、日付と時刻を設定してください。
日付と時刻の設定方法は、「Q 日付や時刻が合っていない」を参照してください。

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を､本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 バックアップについて

バックアップをとるにあたって

- 内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。
  内蔵フラッシュメモリや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。

2 内蔵フラッシュメモリについて

操作にあたって

- 内蔵フラッシュメモリにアクセス中は、電源を切ったり、本製品を動かしたりしないでください。内蔵フラッシュメモリが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- 内蔵フラッシュメモリに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にmicroSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、内蔵フラッシュメモリ、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- 本製品を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- 内蔵フラッシュメモリの空き容量が少なくなると、アプリケーションが起動しなかったり、正常に動作しないことがあります。その場合は、不要なアプリケーションやデータを削除するなどして、内蔵フラッシュメモリの空き容量を増やしてください。

3 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてく

4 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。本製品は5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A」について
http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14

バッテリーを使用するにあたって

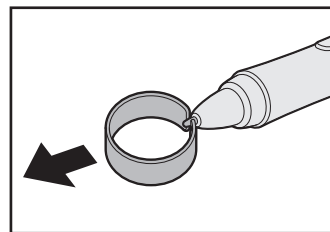
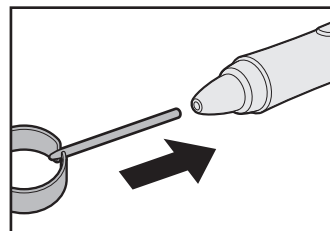
バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの充電量に十分注意してください。
バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、作業中の内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、電源コードとACアダプターでコンセントに接続して、バッテリーを充電してください。

5 デジタイザーペンについて

＊デジタイザーペン付属モデルのみ

取り扱いについて

- ペン先をディスプレイ上に強く押しつける、たたきつけるような使いかたをしないでください。また、デジタイザーペンを使用する前に芯が短くなっていないかをご確認ください。
- 湿度変化の激しい場所や直射日光の当たる場所での使用、保管はお避けください。
- ペン先、サイドボタンおよび消しゴムボタンに必要以上の荷重を加えると寿命が短くなったり、誤動作や故障につながるおそれがありますので、無理な力を加えないでください。
- デジタイザーペン内部に水が入ったり、結露させると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
- デジタイザーペンは精密部品によって構成されています。強い衝撃が加わると誤動作したり特性劣化につながりますので、落下などしないように取り扱いにご注意ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くで使用しないでください。
- 調整がずれたり、寿命が縮まる可能性がありますのでデジタイザーペンを分解しないでください。
- 化粧品や薬品がデジタイザーペンに付くと、外観や品質の劣化につながりますのでご注意ください。お手入れの際はアルコール、シンナー、ベンジンなど揮発性の液体は避け、シリコンクロスや乾いた布を使用してください。
- 曲がったり変形した芯を使いますとデジタイザーペンが誤動作することがありますので、芯に無理な力を加えたり曲げたりしないでください。
- 芯や芯抜きなどの小さな部品が、幼児などの口に入らないようにご注意ください。
- 不特定多数のユーザーが使用するなど、上記内容を管理できないような環境で使用されて品質問題が発生した場合は、当社としては責任を負いかねます。

● デジタイザーペンの芯先端部の丸みがなくなってきたら、付属の芯抜きか毛抜きのようなもので芯を抜いて交換してください。
芯がすり減って短くなり過ぎると、引き抜くのが難しくなります。
芯が短くなり過ぎないうちに交換してください。
①芯の先を芯抜きの丸いくぼみに合わせ、芯抜きではさむ
②芯抜きを矢印の方向にまっすぐ引く

③替え芯を、丸くなっている方がペン先から外に出るような向きで、デジタイザーペンにまっすぐ挿入する

● デジタイザーペンの替え芯は消耗品です。
デジタイザーペンを破損した場合、替え芯を使い切った場合は、別売りのデジタイザーペン／替え芯をご購入ください。

6 Bluetoothについて

● 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
● 本製品ではサポートしていないBluetoothプロファイルがあります。
● 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」を確認してください。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。3章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ず本製品の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・本製品のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・本製品のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

付録

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・本製品の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてから本製品に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、プラットフォームが対応している必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープにすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、本製品の電源をいったん切ったあと、電源を入れ直してください。

❑取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやプラットフォームで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続型ハードディスクドライブ（記憶装置のUSB対応機器）を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、取りはずす前にマウントの解除を行ってください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像を再生する前に、表示装置を接続してください。再生中は表示装置の取り付け／取りはずしをしないでください。
- 次のようなときには、表示装置の取り付け／取りはずしをしないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- 表示装置を接続しているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は、表示装置を取りはずしてください。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 microSDメモリカードを使うにあたって

1 microSDメモリカードの操作にあたって

- microSDメモリカードにアクセス中は、電源を切ったり、microSDメモリカードを取り出したり、本製品を動かしたりしないでください。データやmicroSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- microSDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、本製品の動作が不安定になったり、microSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、microSDメモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- microSDメモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- microSDメモリカードを取り出す場合は、必ずマウントの解除を行ってください。マウントの解除を行わずに取り出すと、データが消失したり、microSDメモリカードが壊れるおそれがあります。

2 microSDメモリカードを使う前に

- すべてのmicroSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのmicroSDメモリカードの動作保証はできません。
- microSDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- microSDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

microSDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
本製品でmicroSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのmicroSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したmicroSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（microSDメモリカード、USBフラッシュメモリなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

製品を使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。
お客様登録は、タブレット本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『サポートガイド』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

http://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。

登録用ホームページ：http://toshibadirect.jp/room1048/

商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 「5章 1 - 2 - Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the Computer's Universal Serial Bus(USB 2.0)port, HDMI out port and microphone/headphone combo jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

5 無線LAN／Bluetoothについて

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11ac（draft）のすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。

■無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n, IEEE802.11ac（draft）	5GHz（5150-5350MHz、および 5470-5725MHz）
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz（2400-2483MHz）
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g, IEEE802.11ac（draft）	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）

2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- **5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac（draft）の場合）**

	チャネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

メモ

- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13，Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140で使用できます。

● 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472

メモ

● インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

3 Bluetoothの仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.4.0
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式　２値FSK

4 無線特性

無線LANおよびBluetoothの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

5 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーを本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

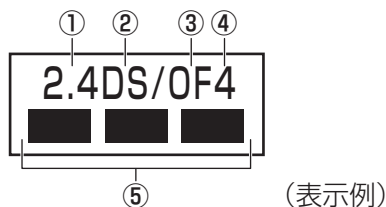
1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

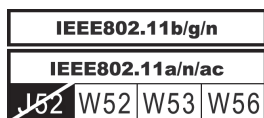
■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『サポートガイド』を参照してください。

❑ 無線LAN

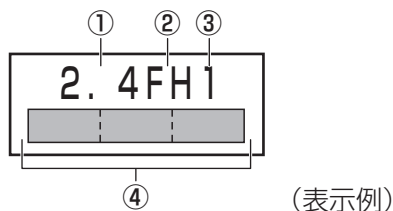
■ 現品表示

本製品または無線LANモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■■■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■ JEITAロゴ表記について

5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャネルをサポートしています。

❑ Bluetooth

■ 現品表示

本製品またはBluetoothモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② FH　：変調方式がFH-SS方式であることを示す。
③ 1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
④ ▭　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

6 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を搭載しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名 ： TOSHIBA AT10LE-A/AT10PE-A
TELEFICATION B.V.
認証番号 ： D13-5025201

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

7 お知らせ

無線製品の相互運用性

■無線LAN

本製品に搭載されている無線LANは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n/ac(draft)）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n/ac(draft)））

■Bluetooth

本製品に搭載されているBluetoothは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.4.0
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetooth ワイヤレステクノロジーのLogo認証

付録

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。本製品のご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件ならびに本製品との接続可否について当該機器の製造元にご確認ください。
  Bluetooth PXP対応機器の有効距離は、当該機器の性能や周囲の電波環境等によって異なります。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

(1) Bluetooth Version1.0B 仕様のBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
(2) 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
(3) Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetoothは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。
本製品に搭載されている無線LANおよびBluetoothの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が無線LANおよびBluetoothの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で無線LANおよびBluetoothを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、無線通信機能をONにする前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

■ Wireless LAN

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user’s manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website
www.hc-sc.gc.ca/

■ Bluetooth

The radiated output power of the Bluetooth Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website
www.hc-sc.gc.ca/

● Taiwan

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

● Europe

■ Wireless LAN

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

付録

8 使用できる国／地域について

海外で無線通信機能を使用する場合は、使用される国／地域の無線規格を取得している必要があります。
無線規格を取得している国／地域に関する情報は、東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」をご覧ください。

また、無線規格を取得していない国／地域では、本製品の無線通信機能をOFFにしてください。

参照 無線通信機能のOFFについて
『REGZA Tabletガイド 2章 3 - 6 電子機器の使用が制限されている場所では』